

としょかん

いわて

岩手県立図書館報

2024. 03 No.194



## contents

### 目次

ページ

02

特集 全国図書館大会岩手大会

16

県内図書館の活動紹介

宮古市立図書館

18

レファレンスコーナー

- ・ 龍が手に持っている玉は何？
- ・ 岩手県のホームパンはいつ頃から始まったのか。

20

児童コーナー わかば通信

としょかんサンタのおはなし会

21

図書館掲示板

震災・防災の学び合いスペース | -ルーム

特集

# 全国図書館大会 岩手大会 2023

理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える  
～希望ある未来は図書館とともに～

令和 5(2023)年 11 月 16 日(木)・17 日(金)、第 109 回全国図書館大会 岩手大会が開催されました。大会運営には、岩手県立図書館職員のほか、県内市町村立図書館職員や県の社会教育主事、盛岡大学の学生ボランティア等も参加し、まさに一大事業となりました。

本特集では、全国図書館大会に運営スタッフとして、あるいは発表者として参加した方々から、お話をお伺いしました。事前の準備や当日の様子、分科会の内容等、様々な立場を通して見た「全国図書館大会 岩手大会」を、ご紹介します。



## “イーハトーブ”での学びを未来へつなぐ

岩手県立図書館館長

森本 晋也

令和 5(2023)年 11 月 16 日(木)と 17 日(金)の 2 日間、盛岡市において第 109 回全国図書館岩手大会が 4 年ぶりの対面により開催されました。多くの関係者のご支援・ご協力のおかげで成功裏に終えることができました。心より感謝申し上げます。岩手県では初めての開催で、全国から図書館関係者が集まり、活発な議論が交わされました。図書館界では、非常勤職員の処遇改善、予算の獲得、デジタル化の進展に伴う読書離れ、町の書店の減少など様々な課題があります。大会では、課題解決の具体的な手立てや魅力ある図書館づくりに向けての先進的な事例が発表され、多くの学びを得ることができました。大会を一過性のものにすることなく、大会での成果を県民の幸せや希望の実現につなげていくための図書館づくりに生かしていく必要があります。大会で得た知見と、人と人とのつながりを大事にしながら、大会テーマの副題である「希望ある未来は図書館とともに」の具現化に努めていきたいと思っております。





## 大会運営本部 全国図書館大会 岩手 大会の開催

令和 5(2023)年 11 月 16 日(木)と 17 日(金)の 2 日間、岩手県盛岡市において 4 年ぶりに対面による第 109 回全国図書館大会岩手大会が開催されました。岩手県においては初めての開催で、「理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える～希望ある未来は図書館とともに～」を大会テーマに、マリオス(盛岡地域交流センター)とアイーナ(いわて県民情報交流センター)を会場に、約 670 人の参加者がありました。

### ■ 大会運営スタッフ

今回の大会運営スタッフは、岩手県立図書館職員(県職員、指定管理者 T R C 職員)、県教育委員会事務局や教育事務所の社会教育主事、沿線の市町村立図書館の職員、盛岡大学のボランティア等で構成し、1 日目 94 名、2 日目 84 名、延べ 178 名で対応しました。

みんなで連携・協力し合いながら、様々な事態や、突発的なことが起きても、臨機応変に対応することができました。

### ■ 開会式・表彰式

第 1 日目は、マリオスの大ホールを会場に開催されました。

オープニングアトラクションは、岩手県立不来方高等学校音楽部による合唱。リハーサル前、生徒 29 名が会場に到着し、大ホールホワイエに入場・整列し、きびきびとした挨拶をした後、「名刺代わりにこの歌を～♪」と素晴らしい歌声がホワイエ内に響きました。私はすがすがしい気持ちになるのと同時に、これから大会本番という時に、これまでの長い準備の疲れが一気に吹き飛んだ瞬間でもありました。

本番では、暗い会場中ほどからペンライトを持って入場という演出からスタートし、岩手ゆかりの「星めぐりの歌(宮澤賢治作詞作曲)」「ふる

さとの山に向ひて(石川啄木作詞)」と「花は咲く」の 3 曲の合唱が披露されました。この日は、3 年生からバトンを受けた 2 年生及び 1 年生による初めての公舞台。希望の歌声、心のこもった公演で、観客を魅了しました。大会参加者からのアンケートでは、「感動した」「涙が出た」「公演後 CD を買った」など、たくさんの賞賛の声をいただきました。



開会式では、大会会長の達増拓也岩手県知事と大会副会長の公益社団法人日本図書館協会の植松貞夫理事長の挨拶、内館茂盛岡市長(代理：多田英史盛岡市教育長)からの歓迎の挨拶がありました。特に、達増岩手県知事からは、昨年、ニューヨーク・タイムズ紙の「2023 年に行くべき 52 か所」で、盛岡市がロンドンに次いで 2 番目に掲げられたことを引用し、「今回、盛岡にいらした皆さんは、まさに行くべきところに来た、ということ、周りに自慢していただければと思います。」といった参加者を勇気づける挨拶もありました。

その後、第 39 回日本図書館協会建築賞の表彰式が行われ、東京都板橋区立中央図書館及び設計者：株式会社松田平田設計が表彰されました。

### ■ 基調報告

日本図書館協会/植松貞夫理事長より、協会の活動報告や図書館をめぐる昨今の動き等の説明がありました。図書館職員の非常勤職員の割合の増加や委託派遣に置き換える顕著な傾向があり、都道府県知事や政令指定都市を含む市長、東京都特別区の区長宛に、非正規職員の処遇改善の要望をしたことが報告されました。また、「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る」議員連盟

の第一次提言に関わる対応や著作権法改正に基づく図書館等公衆送信サービス、デジタル化の一層の進展により読書離れが進んでいる状況等の説明がありました。図書館として、読書習慣のある人や図書館利用者を増やすこと、予算獲得の上からも「存在感ある図書館」を目指すことなど、図書館界で取り組んでいくべき具体的な内容について説明されました。

## ■ 記念講演

国立天文台水沢 VLBI 観測所／所長・教授／  
本間希樹氏ほんま まれきより、「岩手発 ブラックホール行き  
銀河鉄道の旅」と題して記念講演が行われました。



最初に、ご自身が執筆された5冊の著書の紹介がありました。そして、公共図書館の統計(2022年)から、図書館数が3,305館あり、利用者が約5,700万人、蔵書数が4億6,000万冊あり、人類の知見が蓄積されている凄さについて紹介がありました。そして、1冊2冊の本が、科学の歴史を劇的に転換させることがある例として、『解体新書』や東京都三鷹市にある国立天文台図書室所蔵のフランスの天文学と訳した『ランデ暦書』について説明されました。また、間違いの多かった『解体新書』を改訂したのが岩手ゆかりの大槻玄沢おんしよわげで、この人物が江戸幕府の天文方の蛸ぼんしよわげ和解放御用ごようでいろいろな翻訳事業に関わっていたこと、この蛸和解放御用が現在の東京大学や国立天文台の源流機関の一つとなっていることなどの紹介がありました。

明治時代に岩手県奥州市水沢に観測所が選ばれた理由と観測所の設置に関わった岩手ゆかりの科学者／田中館愛橘の活躍、水沢観測所の歴史

と施設の紹介があり、宮澤賢治と水沢観測所との関わり、ブラックホールの不思議、国際プロジェクトでブラックホールの影を撮影することに成功したこととその意義についての紹介がありました。

最後に、研究者から見た図書館への期待について話されました。図書館は人類が長年かけて蓄積した知的成果物の宝庫・貯蔵庫であること。デジタル化社会においてこそアナログの図書館に意義があり、例えば資料保存の永続性の問題や、本の重さや紙の質感、ページをめくる感じなど五感での刺激により理解が深まること。そして、図書館では探した本と別のもの、予想外の発見や出会いがあり、そこから新しいものが生まれること。アナログの良さを残し、人類が続く限り図書館には栄えてほしい、という想いが述べられました。

岩手にゆかりのある人物の紹介や宇宙の不思議をはじめ、ブラックホールを究極の飲ん兵衛に例えてのユーモアあふれた分かりやすい解説など、大変興味深い講演内容でした。

## ■ 4年ぶり対面での懇親交流会

11月16日(木)夜には、ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにおいて、懇親交流会が開催されました。会場までの誘導では、盛岡大学の多数のボランティアに協力いただきました。懇親交流会には、約250名の参加があり、岩手県教育委員会／佐藤一男教育長から歓迎の言葉や文部科学省の八木和広社会教育振興総括官から挨拶等がありました。



また、アトラクションとして、「太田さんさ踊り保存会」の方々による盛岡の伝統さんさ踊りの

披露もあり、「サッカラー、チョイワヤッセ〜」という掛け声とともに、エネルギーな太鼓と華やかな踊りで会場が包み込まれました。久しぶりの対面での開催で、多くの方々が交流を深めることができました。

## ■ 大会の成功

日本図書館協会等大会実行委員会委員の皆様、共催団体や後援団体、協賛企業をはじめ、大会運営や分科会運営スタッフ等関係の皆様のご協力により御蔭様を持ちまして、本県で初めての標記大会を、成功裏に終了することができました。

スタッフの派遣・応援をいただきました関係機関等の職員の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、今後におきましても本県の図書館界の振興につきまして、御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(岩手県立図書館 副館長 菊地 幸男)



## 第一分科会 公共図書館 事例発表

第一分科会は「公共図書館」の分科会。初の全国大会という事で、まさに手探りのスタートであった。公共図書館として共通の課題の解決や、先進的な事例を取り上げようという意見もあり、約一年をかけて岩手県内の各図書館のみなさんが参加して web 会議を 10 回以上重ねて発表館を決定し、テーマを決めた。テーマは「つなぐ」。そのテーマを元に、先進事例として鳥取県立図書館(長年の経験から「できることからやる」をモットー、県内の市町村図書館とのつながりを強化することに力をいれている県立図書館)、鳥取県の南部町立図書館(一日に 500 人の子どもたちが来館する)、愛知県豊橋市のまちなか図書館(様々なイベントを開催、種田館長は東日本大震災当時 NHK 職員で、仙台や松島の取材をした)、そして、せっかく全国から岩手におこしいただくので東日本大震災の際に全国のみなさまからいただい

た支援への御礼と、東日本大震災でのつながりについて事例発表をするということで、当時、実際に東日本大震災を経験し、支援活動の状況にあたってきた私が代表してお話させていただくことになった。当時の県内の状況と、「岩手県地区別図書館相互応援連絡体制」について発表した。特に鳥取県立図書館小林館長からは連絡体制を「書面」にして作り上げているのがすばらしいと評価していただいた。

東日本大震災をきっかけに、岩手県内の図書館では「岩手県地区別図書館相互応援連絡体制」を整備した。岩手県全域を地区ごとのブロックに分け、近隣の図書館間で連絡網を作り、災害時もさることながら、通常時でも図書館同士、図書館員同士で助け合ったり、アイデアを参考にさせてもらったりといった岩手県内の図書館間の「つながり」の形ができた。

岩手県内の図書館が加盟する組織のなかに、公共・大学・専門図書館等連絡協議会(以下、連絡協議会という)がある。この組織は県内の図書館をほぼ網羅した組織となっており、県内の公共・大学・専門図書館等の館種を超えた連携・協力を深め、図書館サービスの充実に資することを目的としている。これまでも、年に一回会議を開催して、意見交換や情報提共有、課題解決のための検討などをしてきていたが、震災後、県内の被災図書館への支援を広く呼びかけるため、情報の共有や一元化等に活躍したのがこの連絡協議会だった。平成 23(2011)年 12 月の会議では県内図書館間の相互応援の必要性について協議され、その後、約 1 年をかけて、「加盟館訪問」「他の相互応援協定の参照」「事務局たたき台のブラッシュアップ」などを行い、平成 24(2012)年 11 月 14 日、岩手県内公共・大学・専門図書館間の相互応援に関する申し合わせが承認された。

市町村立図書館、公民館図書室を地区割にした相互応援体制(大学図書館と専門図書館は地区割に属さず、直接事務局と協議する。)や、平常時の取り組み、災害等の発生時の取り組み等に関する内容となっている。

連絡協議会に加盟する図書館(公民館図書室を含む。以下「加盟館」という。)が災害等による

被害を受けた場合に、他の加盟館は、それぞれの図書館機能を活かしつつ、相互に連携を図りながら可能な範囲で応援することとして、円滑な応援が行われるよう、あらかじめ申し合わせを決めたものである。相互応援体制、平常時の取組、災害等の発生時、初期応援、事務局について設定している。

この地区別相互応援体制は、制定後、大雨災害の時に被害状況調査の折にしっかり機能している。相互協力体制を備えた事は、岩手県の図書館にとって、とても心強い備えとなっていると思う。今後、時代にあった改良や改善を加え平常時にも非常時にも機能する取組みとして継続していきたい。

(洋野町立種市・大野図書館 館長補佐  
平 留美子)



## 第四分科会 児童サービス 担当者の1年半

令和4(2022)年2月に第109回全国図書館大会の準備が始まり、当館児童担当者3名が主体となって、児童サービス分科会を担当することになりました。



▲大会当日、多くの参加者がつめかけた児童分科会

児童分科会は、午前・午後とも基調講演を行う2本立てです。充実した内容にしたい、でも何かから始めればいいのかと、とまどいました。悩みながら歩んだ、担当者の1年半をご紹介します。

## ■ 分科会テーマ・講師決定！

令和4(2022)年初夏、分科会のテーマについて検討を始めました。時間をかけて、児童書や読書推進に関する図書、インターネット情報、過去の図書館大会資料等を調べ、何度も案を持ち寄りました。

紆余曲折を経て、午前の部は東京子ども図書館の取り組みを紹介したい、午後の部は読書の効用について科学的視点から考えたい、と内容が定まってきました。

それぞれ「子どもと本のよい出会いを」「読書が子どもに与える影響」をテーマと決め、講師の選定に入りました。諸般の事情によりお願いできる講師に制約がありましたが、基調講演と実践報告を合わせ、6名の講師をお願いすることになりました。

## ■ 講師へたくさんの依頼事項が

同年12月頃、テーマにぴったりの素晴らしい講師の方々の内諾を得ることが出来ました。しかしホッとしたのもつかの間、複数の原稿執筆や講師申込書の記入など、講師に多くをお願いをしなければならなかったことが分かりました。そのため、何度もメールや電話で連絡を取る必要があり、講師に負担を掛けることになってしまいました。

講師への依頼内容を事前に確認し、初めの連絡の際にお伝えできれば良かった、と反省しました。

## ■ 疑問点をどうするか？

準備を進めると、多くの疑問点が出てきます。講演をオンライン配信にできるか、物販は可能か、午後の部の開始時間を早められるか、講師控室はどうするのか…。そこで、大会運営事務局に疑問の点を伝え、答えてもらう機会を持ちました。

このことで、午後の部のオンライン配信や会場内での物販が可能とわかり、準備を進めることができました。運営事務局とのコミュニケーションの重要性を強く感じました。



## ■ 準備が佳境に

大会2ヶ月前位から、忙しさが増してきます。会場の下見、各講師が使用する機器や物品の確認、司会者の依頼と司会原稿の作成、スタッフの役割分担、受付や物販担当のマニュアル作成と、やることが山積みです。担当者同士で情報共有を図りながら、準備を進めました。

配信に関することや、物販用の会計システム作りは、機器に詳しい職員が一手に引き受けてくれました。

多くの職員の助力で準備が整い、いよいよ当日を迎えました。

## ■ 全スタッフ一丸となって

当日の朝、講師や司会者との打ち合わせと、画像やマイクのチェックを行いました。この間に、物販係は本の販売方法や釣銭、タイムキーパーは残り時間表示のスケッチブック、受付係は出席者名簿と参加者に渡す資料の確認をしました。



▲会場内で本の販売

当日初めて会場入りする職員も多かったのですが、皆が一生懸命的確に動いていて、スムーズに開会できました。事前に作った担当者全員のタイムテーブルが、全体の把握に役立ちました。

開会後は、会場内の温度調節の連絡や途中入場者のためのドアの開閉などで、担当者が講演をじっくり聞く余裕はありませんでした。それでも、講師の方々の本や読書に対する思いが伝わっていることは、参加者の表情から分かりました。

質疑応答では、司会者が聞きやすい雰囲気を作り、図書館員の方やお話ボランティアの方、学生

等から、様々な質問がありました。講師の方々が質問に丁寧に答えてくださることで、内容がより深まっていると、マイクを運びながら感じ取ることができました。



▲受付のようす



▲質疑応答のようす

午後の部の開始前に、オンライン配信の音声がなかなかつながらなかったり、物販の釣り銭が足りなくなったりと、予想外のこともありました。それでも、素晴らしい講師と多くの職員の協力、参加者の皆さんの熱意により、充実した児童分科会になったことが、担当者として最もうれしいことでした。

(岩手県立図書館 松田 恵子)

## 第9分科会 認定司書事業 分科会体験記



「第9分科会 認定司書事業」は、報告とディスカッションを通して、これまでの認定司書制度の成果と今後のあり方について議論しました。

今回、パネラーとして初めて参加した分科会の様子と感想についてご紹介します。

## ■ 認定司書事業とは何か

日本図書館協会が行う認定司書事業は、司書全体の研鑽努力を奨励するとともに、司書職のキャリア形成や社会的認知の向上に資することをねらいとして、平成 22(2010)年度に審査を開始しました。

認定司書とは、「司書の図書館における実務経験や実践的知識・技能を継続的に修得した者を評価し、各地域の図書館経営の中核を担いうる司書として日本図書館協会が認定」するものです。

私が認定司書を目指したのは、東日本大震災とコロナ禍を経験したことがきっかけでした。想定外の事態に対し、司書としての専門性を発揮していくための自己研鑽になればと考えたからです。

## ■ 熱量と熱気に圧倒される

分科会の前半は、4つの報告を拝聴しました。テーマは、認定司書への聞き取り調査をはじめ、国内専門職における認定事業の取り組みとして看護師の事例、海外図書館専門職における認定事業の取り組み、図書館員の人材育成に関する調査結果など、専門性の高いプレゼンテーションに圧倒されました。



▲報告の様子

また、質疑応答では、図書館職員の知識やスキルを明示することはできるのかという問題提起に対し、経験的に学んでいく、いわば“センス”と

もいえる能力の重要性を指摘する鋭い意見が出され、息を呑みました。

さまざまな知見を取り入れながら認定司書制度のあり方を検討していく分科会の光景に、本事業の歴史の重みと、認定司書としての責任の大きさを実感しました。

## ■ 緊張のパネルディスカッション

パネルディスカッションは、私を含め4名で行いました。錚々たる登壇者と並んで発言することには気後れを感じながらも、(登壇者の中では唯一の)現役図書館員として、自分にしか伝えられないことがあるはず……という思いで議論に臨みました。

大まかな議題は、事前にオンラインで打ち合わせを行っていたものの、話題は目まぐるしく変化していきました。認定司書制度の制度的・歴史的な背景、資質能力の見える化、認定のハードル(研修や著作等)、認定司書制度の認知度の向上など、多くの論点が出され、議論は次第に熱を帯びていきます。

印象深い出来事として、「どうしたら認定司書制度の認知度を高められるか」という問いに、地道なロビー活動以外、何も思い浮かばなかった私は、思い切って会場の参加者に意見を求めてみました。

すると、参加者からは、「認定者自身がその責任をどう引き受けて活動していくか、プロフェッショナルとして考えていくべきではないか」「司書の多くは経営の中核で働くことを必ずしも望んでいないのではないか。ずっと現場で働きたいと思っているのではないか」「認定司書は管理職を目指すことが前提なのか。アメリカやオーストラリアでは、専門的な仕事を突き詰めたい人のために別の制度を作っている」などの意見が次々と飛び交いました。

発表者と聴講者が同じ空間を共有できているからこそ、活発な意見交換が展開されたのではないかと感じました。

約1時間にわたるパネルディスカッションを終えて、登壇者3名の豊富な知識と的確な発言に

は尊敬の念を覚えました。同時に、自身の知識やセンスの乏しさを痛感しました。



▲パネルディスカッションの様子

## ■ 分科会を終えて

分科会終了後は、おいしい食事やお酒を交わしながら、登壇者の方たちと話題に尽きない楽しいひとときを過ごしました。

今回の登壇は、さまざまな縁に恵まれて実現しました。昨年5月にパネラーの話をいただき、自分にそのような大役が務まるとは思いませんでした。

しかし、岩手で開催される図書館大会に登壇することなど、一生に一度あるかないかの機会です。やらずに後悔するより、やって後悔した方がいいだろう、という思いで本番に臨みました。

さまざまな不安や、プレッシャーもありましたが、館種を越えた図書館関係者と交流し、刺激し合う場に参加できたことは貴重な経験でした。

もっと図書館員として成長したい、今持っているスキルをさらに磨きをかけて向上させたい、という思いがより高まりました。

最後に、分科会の運営や開催にご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

(岩手県立図書館 岩持 河奈子)

## ボランティアスタッフ 全国図書館大会に 参加して



令和5(2023)年11月16日(木)、17日(金)に開催された全国図書館大会に、盛岡大学の学生もボランティアとして参加させていただきました。1日目の16日には受付・展示・案内を、2日目の17日には展示・案内に加えて各分科会の運営補助をしました。

1日目はマリオス周辺にボランティアが散らばり、参加者の方々を案内しました。寒い中での活動になりましたが、皆がそれぞれ自身の持ち場で与えられた仕事をこなすことができたかと思っています。

2日目には私は第二分科会の運営補助を行いました。受付案内をしつつ、会場内で聴講もさせていただきました。第2分科会はテーマが「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方」となっていて、これからの大学図書館に求められる役割や機能について講演者の方々のお話を聞きました。司書課程の講義で公共図書館について理解を深めていましたが、大学図書館の役割等についてはあまり考えたことがなく、そういった点で新しく手に入れた視点や気づきが多くありました。また、空いた時間で他の分科会会場で聴講し、他県の公共図書館の活動など、自分が知らなかった図書館の働きを知ることもできました。

何度か参加者の方々にお声を掛けていただくことがあり、中には和歌山県から参加している方もいて、全国各地から更なる図書館の発展を求めて参加者の方々が集っているのだと実感しました。

今回の大会に参加した学生皆がとても有意義な時間を過ごせたかと思っています。学びの多い素敵な場に参加できたこと、学生を代表して心より感謝申し上げます。

(盛岡大学文学部 照井 真悠)





## 全国図書館大会を もりあげたい！

前年度、岩手県立図書館創立 100 周年をもりあげ、少し安心していた私たち。令和 5 年度を迎え、だいぶ先だと思っていた全国図書館大会岩手大会が見えてきました。つまり、またもりあげる時が来たのです。

### ■ そうだ、もりあげよう！

令和 5 年 6 月上旬、一緒にもりあげるメンバーを募ります。早速 10 名を超えるスタッフが手を挙げてくれました。みんなやる気のかたまりです。何をやるか、各々イメージを持っている様子。ただ、もりあげたいの皆が全員集まれるのは 6 月末の休館日しかありません。湧き出るアイデアはそんなに待ってられません。そうだ、取り急ぎ紙上討論しよう！と回覧をスタートさせました。

### ■ コンセプトは 2 つ

「何かしたい」と思っても、方向性は必要です。そこで、およそのコンセプトとして、2 つの柱を提示しました。

一つ目は「岩手県立図書館ドヤあ！」する。

実は昨年度、当館所蔵資料の中から、岩手県立図書館設立の提案者である原敬の自筆メモが見つかったのです。100 年の時を超えて見つかったこのメモを披露したい！ また、岩手県文化財指定予定(当時)の『岩手県管轄地誌』も紹介したい！という熱い思いがスタッフにはありました。

そして、何より日頃工夫している展示やイベントなどをお伝えし、「岩手県立図書館すごいなあ」と思っていたきたい！という思いもあります。一見、自己満足のように見えるかもしれませんが、大会に参加される司書の皆さんはこうした工夫を知ること、地域の図書館をさらに活性化するはず。良い点も改善点も含め、当館が少しでも他の図書館の参考になれば、という思いがありました。

二つ目は「大会後も岩手県立図書館が気になっちゃうおみやげ」を持ち帰ってもらいたいというもの。大会当日は発表を聞いただけだったとしても、持ち帰ったおみやげを見て、ふと岩手県立図書館を思い出し、HP や X にアクセスしてみたくなるようなしかけを考えたかったです。

### ■ 湧き出るアイデアと現実

岩手県立を余すことなく堪能いただくために見学会をやろう！ 見学会に参加できなくても、何か館内の取り組みがわかる一覧があればそこだけでも見てもらえるかな、所蔵資料でマスクングテープを作って販売しよう、好評だった「賢治展・啄木展のしおり」また配布したいよね、岩手が舞台の作品マップも面白そう！ オリジナルクリアファイルも作成して配布してもいいよね！ などもりあげたいメンバーからは多種多様なアイデアが出ました。すべてやりたい思いはありますが、現実もあります。一つひとつ、費用と作成期間等を検証する必要があります。検証後は、担当に分かれ、手続きや作業を進めていきました。

### ■ もりあがりを見せた当日

楽しみながらも準備した企画。いよいよ当日を迎え、最高潮にもりあがりました。

まずは、圧巻の展示！ 「岩手県立図書館のお宝紹介！」。昨年度当館資料の中から発見された原敬の自筆メモをガラスケースに入れて展示しました。岩手県立図書館と原敬の関わり、原敬文庫寄贈の経緯、自筆メモについての解説を添えて展示したところ、図書館関係者はもちろん、研究者の方までご覧になっていたとのこと。うれしい限りです。また、岩手県文化財指定予定の『岩手県管轄地誌』も、解説を添えて原本をガラスケースに入れて展示しました。全 11 巻、131 冊からなる資料で、岩手の当時の 642 村の沿革や戸数、物産など詳細にわたり記録されています。こちらも圧巻です！ 普段は貴重書庫の中に保管されている現物を見られる貴重な機会として、多くの方がじっくりご覧になっていました。

「岩手文学マップ」と「岩手マップ～ミステリー編」は、地図に舞台となった市町村を示して作成。作成担当者は「そのままの風景もあれば、架空の場所として登場しているものもあり、大変だった。でも楽しかったです！」と、苦労を微塵も見せず、誇らしげに報告していました。

「岩手県立図書館みどころ MAP」は、すべての展示が決定してからの作業となりました。全国図書館大会期間中開催の展示は20か所以上にのぼり、すべてを網羅することは難しかったのですが、せっかくの展示なので、グループ分けにして紹介しました。本を読むために空けてある書架などの利用者にやさしい工夫や、歓迎の気持ちを表すスタッフ手作りの装飾、文部科学省から異動された館長紹介コーナーには好きな食べ物などの親しみやすいコメント付きの表示などがあり、とにかく枚挙にいとまがありません！でも、せっかくのみどころですから、「岩手県立ドヤあ！」するために、担当職員は頑張りました。

コンシェルジュの館内見学会は、各自の都合でいらっしゃる大会参加者のために、スタート時間を定めず集まり次第の出発としました。結果2日間で182名の方の参加がありました。2名のコンシェルジュがずっと歩き詰めた2日間。両日も万歩計は12,000歩を記録していたとのこと。みんなに紹介したい！というその情熱で歩いたその歩数に、ただただ感謝します。



▲ミニ見学会集合場所とコンシェルジュデスク

歴代企画展のしおり。作画を担当したスタッフにその意図を聞くと、とっても面白いことに気が付きました。せっかくだからそこも紹介したい！と思い、担当に無理を言ってエピソードを公表し

てもらいました。配布していた当時気づかなかった細かなエピソードに、当館スタッフも驚いていました。28,000枚用意したしおりは当月中に配布が終了。皆さんに喜んでいただきました。



▲歴代しおり配布会場



▲マスキングテープ販売、クリアファイル配布の様子

構想から準備の間に立ちはだかった壁もありましたが、当日のもりあがりを見て、担当スタッフ一同安堵するとともに、嬉しさ、感動を覚えました。

テーマにかかげた「岩手県立図書館ドヤあ！」と紹介すること、地元にも帰っても岩手県立図書館を思いだすきっかけとなる「大会後も岩手県立図書館が気になっちゃうお土産」を作成、販売してくれたメンバーに感謝しかないです。そして、それを支えてくれたすべてのスタッフ、ありがとうございました！

みんな、またどこかの機会にもりあがろう！

(岩手県立図書館 似内 望美)

## 図書館グッズ つくってみました！ @全国図書館大会 岩手大会

「全国図書館大会岩手大会を盛り上げよう！」と製作した岩手県立図書館オリジナルグッズのデザインをこの度担当させて頂きました。その製作の流れをご紹介します。各館でグッズを作る際に、参考になれば幸いです。

### ■ グッズ案

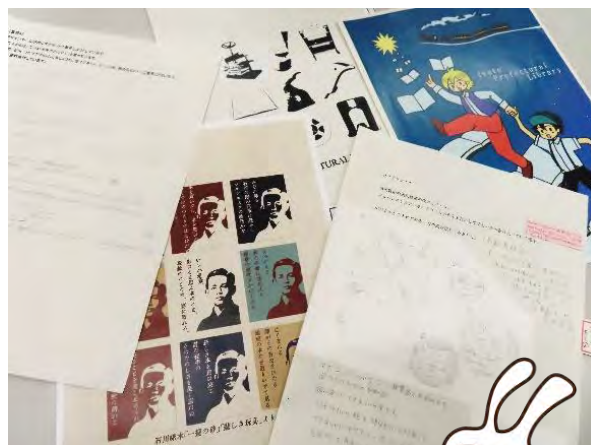
まずはどのようなグッズがいいか、もりあげ隊の皆さんに意見を募りました。「缶バッジ！」「てぬぐい！」「アクリルスタンド！」「一筆箋！」「吉田戦車さんにイラストを依頼してグッズに…！」…などなど、夢あふれるアイデアがたくさん出ましたが、「主な対象である図書館大会参加者へ向けた、実用的で嵩張らない物が良いのでは？」という理由から、マスキングテープ・クリアファイル・マグネットクリップの3種類を製作することに決定しました。

### ■ デザイン案

次にグッズ毎のデザイン案を複数作り、投票を行いました。クリアファイルは「岩手県らしいデザイン」としての宮沢賢治作品モチーフ、マグネットクリップは当館オリジナルキャラクターの意匠、マスキングテープは「絵巻物をマスキングテープにしたら面白いのでは？」という意見から、当館所蔵の『南部藩大名行列図』『盛岡藩領産物御不審物図』（いずれも著作権保護期間外）の図案を使用することが決まりました。

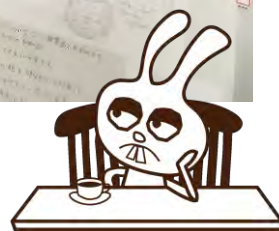


『盛岡藩領産物御不審物図』より「おふじのせなかあて」



▲デザイン案いろいろ

当館オリジナルキャラクター  
セキネさん▶



### ■ クリアファイル用イラスト作成

今大会の記念講演テーマ「岩手発 ブラックホール行き 銀河鉄道の旅」（講師：本間希樹氏）にあやかり、クリアファイルは『銀河鉄道の夜』をモチーフとしたものを2種類作成することにしました。原画は絵の得意なスタッフと私の2人で担当し、それぞれ色鉛筆とクレヨンで手描きしています。図書館グッズであるからには「図書館」要素がなければならないと思い、“本”や“県立図書館の初代建物”といった、図書館に関する図案が入るようなデザインを考えました。また、「カムパネルラは黒い上着を着て時計を持っている」「銀河鉄道が向かう方向は、はくちょう座から南十字へ」など、『銀河鉄道の夜』のストーリーと齟齬が出ないように、描き直さざるをえない場面もありました。

### ■ 製作会社選び

イラスト作成と並行して、グッズ製作を依頼するノベルティ製作会社を探し始めました。価格や品質、納期や支払い方法、データの作りやすさなど、様々な要素を比較検討しながら1社を選ぶのは、とても骨の折れる作業でした。今回はグッズ毎に別会社を選びましたが、入稿形



式や注意点などが各社で異なっていたため、データ作成時の作業が非常に煩雑になってしまったことが反省点です。最終的な入稿用データは.ai形式(Adobe Illustrator)推奨の会社が多い印象ですが、中にはWordやExcelファイルでの入稿が可能な所や、デザインからデータ作成まですべて代行してくれる会社などもあるようです。選択肢が多い分だけ選ぶのも一苦勞ではありますが、それと同時に「これを作りたい!」を実現しやすい、便利な時代になったものだなあ…としみじみ感じました。

## ■ 入稿用データ作成

製作会社が決まり次第、各社のテンプレートを使用し、入稿用データ作成を開始しました。アナログで描いた絵はスキャンして取り込み、他のデジタル素材(図書館ロゴ、図書館オリジナルキャラクターのイラスト、図書館外観写真など)と共に配置していきました。マスキングテープ『南部藩大名行列図』『盛岡藩領産物御不審物図』は、過去にデジタル化用として撮影していた高解像度データを流用し、Adobe Photoshopで図案を切り抜いて作成しています。



▲データ作成の様子

## ■ ロット数、頒布方法など

各グッズの作成数は、「大会期間中は在庫が持ち、かつ今年度中になくなる数」を考えました。しかし実際どれだけ捌けるのかは誰にもわ

からないことなので、非常に悩ましい点でもありました。最終的には多数決により、マスキングテープ2種類を各200個、クリアファイル2種類を各500枚、マグネットクリップ2種類を各200個作成することに決めました。

頒布方法は、単価の高いマスキングテープは販売(『南部藩大名行列図』440円、『盛岡藩領産物御不審物図』300円)、クリアファイルは配布、マグネットクリップは大会期間中の見学会にご参加頂いた方へプレゼント、という形になりました。

## ■ 製作スケジュール

今回のグッズ企画が本格的に動き出したのは図書館大会の約3か月前のことでしたが、当初は十分に間に合うだろうと考えていました。しかし業務の合間を縫っての作業は思ったように時間が取れず、結果、メッキリギリの入稿となってしまいました。さらにマグネットクリップはデータに不備があり再入稿したため、図書館大会当日(11月16日)の午前中に現物が届くという、冷汗もののタイムスケジュールとなってしまいました。担当者として深く反省しております。

大きなイベント前は皆それぞれが準備に忙しく、コンセンサスを得るにも時間がかかります。またデータ不備などのミスも「必ず何かあるだろう」くらいの心構えで、十分に余裕を持ったスケジュールを組むことを強くおすすめします。

## ■ 解題リーフレット

マスキングテープには、『南部藩大名行列図』『盛岡藩領産物御不審物図』の説明書きを載せたリーフレットを同梱することにしました。



当館ホームページなどに掲載している解題をもとにして、A8サイズのリーフレットに収まるように文面を整えて掲載しています。余談ですが『盛岡藩領産物御不審物図』とは、盛岡藩領内で産出される産物のうち、名前を聞いただけでは何のことかわからない”不審物”について幕府に説明するために描かれたものです。ヒトデのことを「おふじのせなかあて」、てんとう虫(?)を「ちょうじゃひめこ」、タヌキのような生物は「くさい」…など、「えっ!?昔はそういう風呼んでいたの?」とびっくりする産物が盛り沢山です。知れば知るほど魅力的なこの資料、図書館員としては是非とも各産物の読み方をリーフレットに盛り込みたかったのですが、A8には収められずに泣く泣く断念しました。

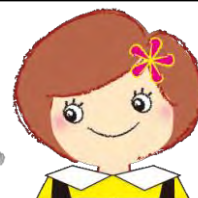
## ■ むすびに

図書館大会を盛り上げよう!と始まった今回のグッズ企画ですが、製作中には「大量に売れ残ったらどうしよう…」という不安もありました。しかし大会参加者だけでなく一般利用者からもご好評頂き、クリアファイルは当月中に配布終了、12月にはマスキングテープも無事完売と相成り、ほっと胸をなでおろしています。また当館初の試みでもあった図書館所蔵資料のグッズ化については、反響から見ると「図書館にはこういう資料もあるんだ」と利用者に知ってもらいたいきっかけの1つになるのではないかと感じました。機会があれば今度は別の資料、特に埋もれがちな郷土資料などを紹介するためのグッズ化やイベント、ワークショップなど考案してみたいと思います。

最後に、グッズを購入して頂いた皆様はもちろんのこと、企画に携わったすべての方々に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

(岩手県立図書館 山本 祥子)

完成したグッズが  
こちらです



▲マグネットクリップ



▲クリアファイル▶



▲マスキングテープ



# 第 109 回 全国図書館大会 岩手大会

理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える  
～希望ある未来は図書館とともに～

令和 5 (2023) 年 11 月 16 日 (木) ～17 日 (金)

岩手県盛岡市

マリオス (盛岡地域交流センター) / アイーナ (いわて県民情報交流センター)

## 1 日目: 11 月 16 日

### オープニングアトラクション

岩手県立不来方高等学校音楽部による合唱

### 開会式・表彰式・基調報告

### 第 109 回全国図書館大会 記念講演

「岩手発 ブラックホール行き 銀河鉄道の旅」  
本間 希樹 氏 (国立天文台 水沢 VLBI 観測所  
所長 / 教授)

## 2 日目: 11 月 17 日

### 第 1 分科会：公共図書館

「“つながる図書館”～幸せと希望を実現する公共図書館の試み～」

### 第 2 分科会：大学・短大・高専図書館

「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方」

### 第 3 分科会：学校図書館

「学校図書館活動の活性化 ～学校の「魅力」発信～」

### 第 4 分科会 [午前]：児童サービス (1)

「子どもと本とのよい出会いを」

### 第 4 分科会 [午後]：児童サービス (2)

「読書が子どもに与える影響」

### 第 5 分科会：図書館情報学教育

「日本の図書館情報学教育の現状：『日本の図書館情報学教育』調査から」

### 第 6 分科会：著作権

「令和 3 年改正著作権法の施行後の動向～図書館サービスに活かす上で考えたいこと～」

### 第 7 分科会：図書館の自由

「戦争と図書館」

### 第 8 分科会 [午前]：障害者サービス (1)

「SDGs と図書館、誰も取り残さないインクルーシブな図書館を目指して」

### 第 8 分科会 [午後]：障害者サービス (2)

「最新の ICT 技術・アクセシブルな電子図書館を活用して目指す、障害者の読書環境」

### 第 9 分科会：認定司書事業

「日本図書館協会認定司書事業のこれまでとこれから」

### 第 10 分科会：災害と図書館

「災害と図書館 ～東日本大震災に学び今後の対策を考える～」

### 第 11 分科会：出版流通

「地方における書店の役割と図書館」

### 第 12 分科会：多文化サービス

「暮らしの中の情報と多文化サービスー岩手県の事例を通してー」

### 第 13 分科会：非正規雇用職員

「指定管理者・委託で働く非正規雇用職員」

### 第 14 分科会：市民と図書館

「住民が取り組む図書館職員問題」



# 県内図書館の活動紹介

県内各地の図書館から特徴と活動をご紹介します

## 宮古市立図書館

所在地：〒027-0052 宮古市宮町三丁目 2 番 2 号

TEL: 0193-62-2414 FAX: 0193-62-0672 Email: toshokan@city.miyako.iwate.jp

現館建築年月：昭和 58 年 4 月 延べ床面積：2,435 ㎡



図書の蔵書冊数： 224,251 冊 (令和 5 年 4 月 1 日現在)

年間来館者数： 74,144 人 (令和 4 年度)

年間登録者数： 3,387 人 (令和 4 年度)

開館時間	水曜日～土曜日：午前 9 時 00 分 ～ 午後 7 時 00 分 火・日・祝日：午前 9 時 00 分 ～ 午後 5 時 00 分			
休館日	・月曜日（祝日の場合はその日に最も近い平日） ・年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日） ・蔵書整理期間（3 月 21 日～31 日）			
登録範囲	市内に在住する者又は学籍若しくは勤務先を有する者			
貸出点数・期間		点数(点)	期間(日)	延長
	図書	合わせて 12 点 (視聴覚資料は 2 点まで)	14	可
視聴覚資料	14		不可	



## 宮古市立図書館の特徴と活動

### はじめに

宮古市では市民が生涯にわたって本と親しむ「読書まち宮古」を推進しています。宮古市立図書館は市民の生涯学習に資する場として「図書館を利用しやすい環境づくり」と「本に親しむ機会づくり」の役割を担っています。

図書館をより多くの人に利用していただくため、資料の充実や移動図書館車での貸出しのほか、電子図書館サービスやフリーWi-Fiの導入など、デジタル環境の活用も始めました。また、様々な年代の方が読書を楽しめるような事業を企画し、図書館を身近に感じてもらえるよう取り組んでいます。

今回は、市の各課とのコラボ展示と中高生向け読書推進事業について紹介いたします。

### 市の各課とのコラボ展示

宮古市立図書館では、毎月の特集展示のほかに、市の各課とコラボ展示を行っています。令和5年度は4つの課と連携して、「里親制度」や「脳卒中」、「女性に対する暴力の根絶・児童虐待防止」や「アルツハイマー」など様々なテーマで展示を行いました。

コラボ展示では、関連図書の貸出しのほか、ポスターの展示や配布用のチラシ・パンフレットを設置しました。市の各課と協力して展示を行うことで、当館にはない資料や情報を提供してもらうことができました。それらを図書館資料と一緒に展示することで、より詳しい情報を届ける機会になっています。



▲こども課とのコラボ展示「里親制度」について

### 中高生向け読書推進事業の充実

宮古市立図書館では、中高生向けの本を集めたティーンズコーナーを設置しています。しかし、

中高生の来館はあるものの、図書の利用が少ない状態でした。中高生の図書館利用を増やすため、令和4年度から中高生向けの読書推進事業の充実を進めてきました。

#### ① 中高生向け特集展示・図書館だより

これまで毎月実施している特集展示は一般図書と児童図書のみでしたが、令和5年7月からはティーンズコーナーでも3ヶ月に1回、特集展示を始めました。夏の時期はバンドや音楽、秋は心と体の健康についての特集を行いました。普段は書架に並んでいる本を面出しして紹介することで、興味を持ち手に取ってもらえることが増えているようです。

また、中高生向けの図書館だよりを発行し、市内の中学校・高等学校に配布をしています。図書館だよりでは、ティーンズコーナーの特集展示のほか、図書館職員おすすめ図書の紹介、図書館で実施しているイベント、中高生向けの電子図書などを掲載し、当館を知ってもらうきっかけづくりを行っています。

#### ② 期間限定の意見箱「TEENS VOICE」の設置

期間限定でティーンズコーナーの一角に、専用の投稿用紙とポストを設置し、10代利用者の意見を募集しました。期間は7月から9月までと12月から翌年2月までの2回実施し、「こんな本が読みたい」「この本おもしろかったよ」といった様々な意見をいただきました。

読みたい本のリクエストでは、図書館を利用している中高生の声を聞くことができ、資料選定の参考にもなりました。



▲書架の隣に TEENS VOICE を設置しています

これからも、子どもから大人まで、市民が本に親しむ拠点、情報発信の拠点としてサービスの充実を図り、図書館を身近な存在と思ってもらえるよう取り組んでいきたいと考えています。

(宮古市立図書館 担当：三浦)

# レファレンスコーナー

県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。

## Q. 龍が手に持っている玉は何？

### 【キーワード】

りゅう(竜) 玉 宝珠

### 【調査プロセス】

1. 事典類を調査。
2. 龍に関する資料を調査。
3. 仏教に関する資料を調査。



### 【回答】

まずは百科事典や伝説、民話に関する事典を調査しましたが、龍の持っている玉について言及されているものは見つけれませんでした。

次に龍の伝説や民話に関する資料を調査しました。『ドラゴンの教科書』には“多くの伝説が示すところによれば、中国の竜は、しばしば顎のしたなどに貴重な珠を持っている。”とあります。『龍の文明史』では“龍の珠は「願えば願った物」や「おいしい料理」を出す如意珠であり、水をコントロールし、雨を降らし風や火を呼ぶ宝珠であり、(中略)口に含んでいればたとえ死んでも復活できる宝珠である等と語られている。”とあります。貴重な宝珠であることは分かりましたが、質問とは異なり、顎の下や口に含んでいるとされています。

いくつかの資料で、龍は中国の文化や仏教とともに伝えられた、という記載があったため、宗教に関する事典も確認してみました。すると『世界宗教用語大事典』の「宝珠」の項目に、“(前略)とくに種々の物を意の如くに出すので如意宝珠ともいう。竜王や摩竭魚(まかつぎょ)の脳中にあるとか、仏舍利(ぶっしゃり)の変じたものなどともいわれる。”という記述がありました。仏教上でも宝珠として出てきますが、やはり手に持っているとはされていません。

そこで龍に関する資料をさらに見ていくと、『図説・龍の歴史大事典』で詳しい記述を見つけることができました。これによると、龍が宝珠を所持する、護持するという話は南方民族の神話からインドの伝説に採り入れられ、如意宝珠は龍王の脳中より生ずるものとされました。これがインドから中国、日本に伝わるうちに、龍は守る宝珠を顎の下にかけている、口に含んでいるという表現に変化していきます。龍が珠を握るという構図が現れるのは室町時代の頃ようです。“室町時代に作られた謡曲『海士(あま)』には龍宮の龍が唐より渡来の珠を奪ったという話があり、これが広まってから龍が片手に珠をつかむというスタイルができた。”という記述があり、質問のイメージとも合致しました。

龍が持つ宝珠の由来が仏教からというのは驚きでした。想像上の生物であるからなおの事でしょうか、伝播していくうちにその地域の信仰や風土、歴史などが織り込まれ、形を変えていったことがよく分かる事例でした。

### 【主な参考資料】 ※( )内は当館請求記号

- ・『ドラゴンの教科書』 ダグラス・ナイルズ//著 高尾 菜つこ//訳 原書房 2019 (388 /ナ)
- ・『龍と人の文化史百科』 池上 正治//著 原書房 2012 (388 /イ)
- ・『図説・龍の歴史大事典』 笹間 良彦//著 遊子館 2006 (388 /サ)
- ・『世界宗教用語大事典』 須藤 隆仙//著 新人物往来社 2004 (R 160.33 /ス)

# Q.

## 岩手県のホームスパンはいつ頃から始まったのか。



【キーワード】 ホームスパン 緬羊 毛織物

### 【調査プロセス】

1. 県内の「ホームスパン」「繊維工学」についての資料を確認
2. 産業・工芸関連の資料を確認
3. 緬羊の歴史についての資料を確認

### 【回答】

ホームスパンとは、羊毛の状態で染色し手で紡いだ糸で織った織物のことをいい、原産地はスコットランドやアイルランド地方と言われています。岩手県の商品として現在の価値まで高めた人物としては東和町(現 花巻市)の梅原乙子や及川全三、盛岡の中村ヨシ等が有名です。

日本のホームスパン事業の始まりは大正期、政府の畜産試験場が各地で羊毛加工等の巡回指導を行ったことが、民間に普及させるきっかけになったといわれています。『**東北の工匠**』には、岩手のホームスパンの“生みの親”は梅原乙子であるとして、大正期に梅原乙子が盛岡で行われた巡回指導に参加したことが、岩手のホームスパンの始まりであると記載されています。

しかし、明治時代に始まったという資料も多くありました。

『**岩手のホームスパン(てくり別冊)**』には、岩手県のホームスパンについて、明治期に二戸郡福岡村にイギリス人宣教師が在住しており、地元住民にホームスパンの紡ぎ織りの指導をしたことが記載されています。同様の記載は他の資料にも見られますが、その年代についてはさまざまで、『**岩手県農業史**』には明治20年(1887)頃、『**岩手の伝統産業展図録 昭和57年度**』には明治14年(1881)頃、岩手県文化財報告書『**岩手の諸職**』には明治9年(1876)頃に伝わっていることが記載されています。この年代の開きについて、改めて岩手に緬羊が入ってきた頃について資料を確認しました。

明治時代、政府が国家の近代化を急ぐために、陸・海軍、警察官や鉄道員、船員等の制服用の毛織物の需要が高まり、その自給体制を作ることが必要となりました。そこで、勸農政策(農業を奨励する政策)として、牧羊事業育成を推進することになります。

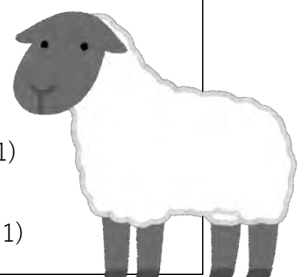
二戸郡斗米村の蛇沼農場が操業したのが明治9年。『**羊は未来を拓く**』を確認したところ、明治8年(1875)～明治21年(1888)は、第一次緬羊飼育奨励事業という、アメリカ等から羊を輸入し緬羊の飼育を奨励していた初期の時代だったようです。

この明治時代の緬羊飼育奨励事業は、明治21年(1888)に打ち切られますが、大正期に入ると「有畜農業」が奨励され、副業機会の少なかった東北地方の農村・山村で緬羊飼育に取り組む農家が増え、やがてホームスパンが研究され、発展していきます。

明確な年代を特定するには至りませんでした。岩手県のホームスパンが、日本に緬羊が入って来たかなり早い時期から始まっていたことがわかり、岩手県のホームスパンの歴史と、緬羊の歴史との深い関わりを考えさせられた事例でした。

### 【主な参考資料】 ※ ( ) 内は当館請求記号

- ・『岩手のホームスパン(てくり別冊)』LLP まちの編集室 2015.10(K586.57 /イ7)
- ・『岩手県農業史』岩手県 1979.1 (K612 /イ1 /2)
- ・『羊は未来を拓く』羊をめぐる未来開拓者共働会議 1990.9 (K 645 /ヒ1)
- ・『岩手の伝統産業展図録 昭和57年度』岩手県立博物館 1982.10 (K750 /イ3 /1-82)
- ・『岩手県の諸職 諸職関係民俗文化財調査報告書』岩手県教育委員会 1991.3 (K750 /イ7 /1)
- ・『東北の工匠』毎日新聞社 1979.12 (K750 /マ1 /1)
- ・『季刊染織と生活 第19号(特集:手織りホームスパン)』染織と生活社 1977.12 (K753 /イ1)





## としょかんサンタのおはなし会

12月は、クリスマスのおはなし会を開催しました。新型コロナ感染拡大防止のため、おはなし室での開催は、なんと3年ぶり！ということで、特別な会にしたいと思いました。

そこで、おはなし会を赤ちゃん向け、幼児向け、小学生向けと、参加者の年代にわけて開催しました。対象をしぼることで、参加者に楽しんでもらえるプログラムを考えることができました。

さらに、図書館スタッフによるフルート演奏を各回行い、とてもスペシャルなイベントになりました。

12月16日(土)

- ① あかちゃん向けおはなし会  
10時30分～11時00分
- ② 幼児向けおはなし会  
14時30分～15時00分
- ③ 小学生向けおはなし会  
15時30分～16時30分



① あかちゃん向けおはなし会  
サンタさんの話すお話に、興味津々。  
勢いよく立ち上がって、聞いてくれる  
子もいました。

② 幼児向けおはなし会

お話のなかのライオンさんは、サンタさん  
からプレゼントをもらえるかな？  
みんなドキドキして聞いてくれていま  
す。

③ 小学生向けおはなし会

楽しい手遊びに、大喜び！子どもたち  
は、サンタさんと一緒になって歌った  
り、マネしたりしてくれました。



# 図書館 掲示板

県立図書館からの連絡や告知をお届けします



岩手県立図書館では、東日本大震災津波からの復興や防災を含む今日的な課題について、児童生徒やグループによる学び・探究等を支援するため、震災・防災等の学び合いスペースを開設しました。

復興・防災教育などをテーマとする展示や豊富な参考資料に出会い、地域課題の解決に有益な情報(information)や進むべき方向性を示す指標・指針(index)を得る場と、愛と希望に満ちた岩手県(Iwate Prefecture)の創造につながる拠点となるよう、さまざまな『あい』を集め、「I-ルーム」と名付けました。



4階北側奥スペースに設置。東日本大震災関連資料を中心に、広く災害や防災に関する資料を公開しています。



机や椅子、書架は、「いわての森林づくり県民税」を活用し、県産木材を使用して製作しています。

## 岩手県立図書館 震災・防災資料コーナーのあゆみ

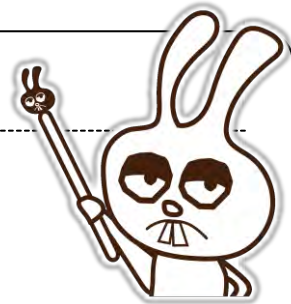
◆ 平成23年(2011)10月21日(金)  
震災関連資料コーナー プレオープン

◆ 平成24年(2012)4月1日(日)  
震災関連資料コーナー 本オープン

東日本大震災に関する資料を後世に引き継ぎ、災害復興や防災対策(研究)にも役立てていただけるよう、3階 郷土資料コーナー内に「震災関連資料コーナー」を設置。

◆ 令和5年(2023)11月3日(金・祝)  
I-ルーム オープン

東日本大震災津波や防災を含む今日的な課題について、児童生徒やグループによる学び・探究等を支援するため、4階 北側奥スペースに震災・防災等の学び合いスペース「I-ルーム」を開設。旧震災関連資料コーナーの資料を移動。







# 具体的にできること



## レファレンス支援

学校や各種団体等へ、震災津波や防災について、具体的に学べる図書や資料の提示・調べ方等の支援を行います。



## セット貸出

東日本大震災津波、自然災害・防災に関する図書をセットにし、学校や各種団体へ貸し出します。セット内容は、

- 先生や生徒が検索して選ぶ
- 「I-ルーム」で直接選ぶ
- お調べのテーマや学習内容に応じて図書館職員が選ぶ

など、場面に応じて使い分けられます。

## ワークショップ

「I-ルーム」において、震災津波や防災、地域課題をテーマに、ワークショップ等を企画・開催します。



## 総合的学習

内陸の学校が沿岸に行く前に事前学習として、具体的に学べる図書や資料をご利用いただけるほか、探究的学習・事後学習にもお役に立ていただけます。



## 自然災害における防災・安全

地震・津波・火山・台風・大雪など、近年、激化するさまざまな自然災害について、総合的に学ぶことができる情報拠点とします。



## サテライト機能

東日本大震災津波伝承館をはじめとした県内の震災伝承施設等と連携し、防災に関する展示や各施設の特徴の紹介などを行っています。沿岸部についての事前学習や情報収集を行うことで、郊外学習や研修旅行の学習効果が高まります。

# イベント

I-ルームでは復興・防災などをテーマとする様々な催事を開催しています。これまで開催したイベントをいくつかご紹介します。



## 2024.3/2 (土) 地震防災を考える ～東日本大震災・能登半島地震をうけて～

令和6年1月1日に発生した能登半島地震をふまえ、地震や災害の基礎を学ぶとともに、東日本大震災被災県でもある岩手県の防災について、講演とパネルディスカッションを開催しました。

## 2023.11/1 (水) ～ 2024.3/24 (日) 岩手日報記者が撮影した 東日本大震災報道写真展

発災から10年以上が経過し、風化が懸念される東日本大震災。岩手日報社が所有する発災直後の紙面と写真で当時の状況を紹介したパネル展示です。



## 2024.3/3 (日) 一戸高校生と学べる防災ボトル ～カバンに入るコンパクトな備え～

岩手県立一戸高等学校の総合的な探求の時間で防災研究班の生徒5名が研究した「防災ボトル」について発表していただき、参加者全員で作成しました。





岩手県立図書館報

# としょかん いわて

No.194

発行日 令和6年3月20日

編集・発行 岩手県立図書館